

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE series—235

日没前後に走行中のクルマのヘッドライト点灯状況を観察する



ある日の午後、気になる実際の交通状況を観察しました。



ヘッドライトに照らされる自転車利用者



道路を横断する歩行者に無灯火のクルマが接近する

Q1

日没前の1時間にヘッドライトを点灯していたクルマは何%いたでしょうか？

(観察日の日没時刻は午後4時42分でした)

- 観察場所／東京都世田谷区経堂4丁目付近
- 観察日／1月7日(木曜日)
- 天候／晴れ
- 観察時間／15:45～17:45
- 観察者／4名

こんな事故が起きています

夕方は交通事故が多い

平成20年中の交通事故件数を時間帯別に見ると、午後4時～午後6時の2時間が11万7900件と最も多く、次いで午前8時～10時の時間帯が11万2353件と多くなっている。

((財)交通事故総合分析センター資料)

Q2

薄暮時に停車中のクルマのカゲから横断しようとする歩行者を目撃しました。クルマはどのように走行すればよいのでしょうか？

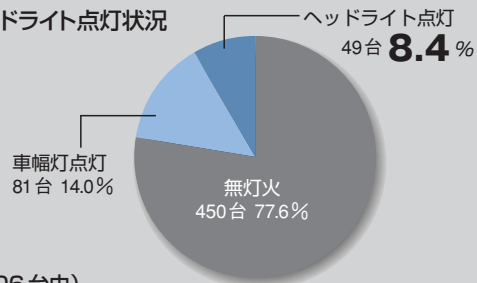
商用車はヘッドライトの点灯時間が早めだった

解答・解説

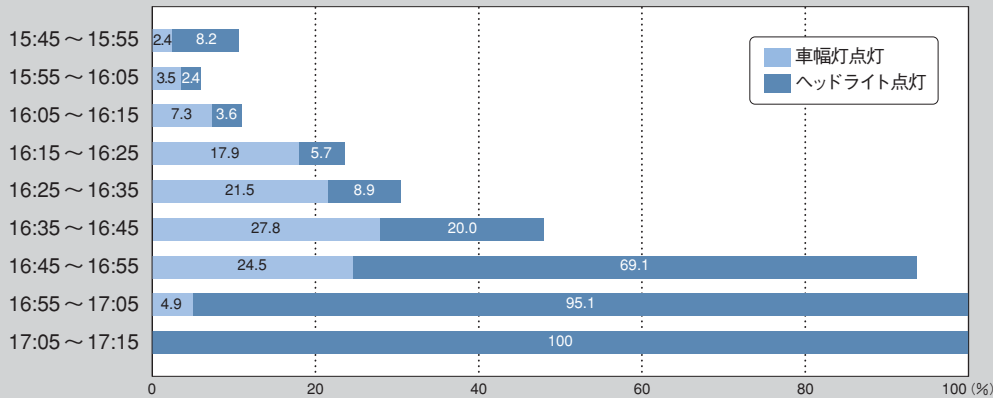
実際の観察から

Q1の解答：8.4%

●午後3時45分～4時45分までのヘッドライト点灯状況 (580台中)



●日没前後のヘッドライト点灯状況 (1106台中)



※午後5時5分以降、ほぼ100%ヘッドライト点灯

- 観察場所は、片側一車線の道路。観察中の2時間に、1106台のクルマが通過した。
- 観察開始の午後3時45分頃は、まだ周囲が明るく感じられた。この時間帯は、ほとんどのクルマが無灯火だったが、一部タクシーや宅配便トラックなどがヘッドライトを点灯していた。
- ヘッドライトを点灯したクルマは、日没前の午後4時35分からの10分間は全体の20.0%だったのに対し、日没後の午後4時45分からの10分間では全体の69.1%と急激に増加した。
- 普通乗用車よりも商用車やトラックの方が早めにヘッドライトを点灯する例が目立った。
- 車幅灯(スモールランプ)を点灯していたクルマのピークは、日没の前後30分の時間帯だった。ヘッドライトの代わりにフォグランプを点灯していたクルマも数台あった。
- 観察場所には、横断歩道は設けられていないが、交差する生活道路から出てきて、道路を横断する歩行者や自転車利用者が観察された。片側車線は、前方にある信号待ちで渋滞する場合もあり、渋滞しているクルマの間をすり抜けて横断するケースもあった。

Q2の解答：

薄暮時には、ヘッドライトを点灯する。歩行者の動きや周囲の状況に注意して安全な走行を心がける。

【解説】

ヘッドライトを点灯すると、歩行者や自転車利用者の早期発見に役立つほか、自分の存在を他車や歩行者に早めに知らせることができる。



渋滞中のクルマのカゲから横断する歩行者

ここがポイント

- 周囲が暗くなる前に、早めにヘッドライトを点灯する。
- 暗くなると、歩行者や自転車利用者の動きを見落としやすくなるので、注意が必要。周囲の状況をよく見て、スピードを控えるなど安全な走行を心がける。
- 歩行者は、クルマのカゲからの飛び出しや、無理な横断はしない。反射材の着用や、目立つ色の服装での外出を心がける。

ワンポイントDATA

ヘッドライト点灯で、歩行者などの早期発見に効果

大分県警察本部による「夕暮れ時の認知・反応の遅れ」、「ヘッドライト点灯の効果」等の実験では、認知反応時間は昼間が0.53秒だったのに対して、夕暮れ時は1.07秒であった。

また、夕暮れ時のヘッドライトの効果測定したところ、ヘッドライトをつけたときはつけなかったときより認知反応時間が0.28秒短縮(50km/hで約4m短縮)された。

(出典：「人と車」2001年1月号)